8月 28 日（金曜日）「らい病人のきよめ」

【新改訳 2017】

ルカ　5.12-15

「‥‥‥ある町に……全身ツァラアトの人がいた。イエスを見ると、ひれ伏してお願いした。『主よ。お心1つで、私をきよくしていただけます。』イエスは手を伸ばして、彼にさわり、『わたしの心だ。きよくなれ』と言われた。‥‥‥」（12,13 節）

主イエスの子のおことばで、この人のツァラアトはすぐ消えました。

ツァラアトについては、昔イスラエルでは、宗教的汚れときよさとの関係と合わせ、特別な見方と扱い方がされました（レビ 13.14 章参照）。病人は分離、孤独、悲哀の中に置かれました。

主は深くあわれみ、手で触ってきよめました。祭司に見せる（14 節）のは、きよくなったことを儀式的に宣言してもらうためでした。主の心は、肉体的あるいは霊的、または社会的に病んでいる人が癒され、幸いに生きることを望み、助けようとする愛の心なのです。

～祈り～

主よ。あなたは、人々を深くあわれみ助けてくださるお方です。

あなたの愛のお心を感謝いたします。

【学びのために】

「ツァラアト」について:「新改訳聖書第 3 版あとがき」を参照してください。